

平成23年度
モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度
大阪教育大学附属池田小学校 実施結果概要

（様式 3-2：実施結果報告書）

実施結果報告書

1. テーマ：安全の視点を育む交通環境教育			
2. 実施教科：社会科、安全科			
3. 関連単元：「災害発生、さあどうする！？ ～安全のためにできること～」			
4. 実施授業時数：5 時間			
5. 学年・クラス	3 年生	6. 児童数	1 1 6 名
7. 実施内容 児童は社会科で火事や事故、災害が起こった際の消防や警察、地域の人びとのくらしをまもるための取り組みについてすでに学習しており、救急車や消防車がより早く現場に到着することがより高い確率で人びとの救命につながるという知識を持っている。 今回の学習でさらに、二酸化炭素と地球温暖化や普段の生活、交通手段とのかかわりを学ぶことにより、普段の生活が地球温暖化に関係していることを学ばせる。 また、過去と現在の地域の道路の変遷を学習し、交通手段が徒歩から電車や自動車に変遷したことを学び、交通手段の変化（主に自動車利用の増加）が二酸化炭素の増加に関係していることを学ばせる。 さらに、渋滞時の緊急車両（消防車）の出動状況を考え、渋滞が緊急車両の妨げになっていることを知ることで、防災面や環境を考慮して今後の生活の仕方について学ばせることができた。 最後に、これまでの学習でわかったこと、気づいたことをまとめて発表させるとともに、児童同士で意見を交換し合い、友達の意見を聞き、自分の意見との違いや優れている点などの考察をさせた。			

8. 学習のながれ：

1. 二酸化炭素と地球（1時間）

今、二酸化炭素が増えることによって、地球の環境が変わってきていることや今後の地球の様子を知ることにより、今の自分たちの行動を振り返り、どうこうどうすべきか考える。

2. 二酸化炭素と私たちの暮らし（1時間）

普段の生活の中で二酸化炭素を出していることに気づくとともに、二酸化炭素を出さずに生活できないことを知る。

3. 二酸化炭素と交通（1時間）

時代とともに道路が発達してきたことを知る。そして、道路が増え、交通手段が徒歩から車や電車に変わると、二酸化炭素排出量も増えてきたことを知る。

4. 社会見学（1時間）

防災センターを見学し、災害時の備えや消防、救急活動がどのようにして行われているのかを知る。

5. これからの暮らし（1時間）

交通渋滞が発生することにより、救急活動で現場に到着することが遅くなることを知り、どのようにしたら交通渋滞が減らせるか考えさせる。

これまでに学んできた環境や防災のことを考え、総合的にどのようにすればよいか考えさせ、ポスターにまとめさせることにより、自ら提案することを考えさせるとともに、友達の意見について考えさせることを行った。

※指導計画書や学習で使用した教材、学習風景を撮影した写真、児童の作品などを添付して提出してください。